

いじめ緊急対策研修会から学ぶ!

いじめが社会的な問題になっている今、各学校におけるいじめ問題への対応や校内体制の再認識のために、緊急に研修会を開催しました。

開会行事では、岩手県教育委員会の八重樫勝委員長より、次のような挨拶がありました。

- ★いじめは絶対に許さないという姿勢が必要である。
 - ★いじめの防止のためには、学校だけでなく、保護者や地域と連携して取り組むことが不可欠である。
 - ★教育のプロである教師が、一番頑張ってもらいたい。また、授業を通して生徒指導を行うことを大切にしたい。
- そして、子ども達の笑顔があふれ、充実感を感じられるような学校づくりに取り組んでほしいと、挨拶を結びました。



【八重樫勝委員長おすすめの本】

- 「いじめで子どもが壊れる前に」 藤川大祐千葉大学教育学部教授・著（角川学芸出版）
- 「菊池先生の『ことばシャワー』の奇跡」 菊池省三・関原美和子・著（講談社）

県内のいじめの状況と課題

岩手県教育委員会事務局学校教育室
首席指導主事兼生徒指導課長 田村 忠
指導主事 山根 孝広

「いじめ」対応のポイント

- * 「いじめ」は、どの子にも、どの学校にも起こりうることで、あってはならない（根絶）こと。
- * 5つのポイント

未然防止・早期発見・早期対応・共通理解・情報提供

いじめ発見のきっかけ

- * 本人や保護者からの訴えが多い。
- * アンケートも有効。



いじめ対応からみられる課題

- ①組織としての「報告・連絡・相談」体制が機能していない学校 ⇒ 情報共有
- ②記録があいまいな学校 ⇒ 情報共有
- ③対応にスピード感のない学校 ⇒ 早期対応
- ④加害児童生徒への対応が不十分な学校 ⇒ 共通理解
- ⑤担任の配慮が不足している学校 ⇒ 共通理解
- ⑥個への指導に終始し、集団への指導が不足した学校 ⇒ 共通理解

いじめ根絶に向けた組織体制の構築

岩手大学教育学部 准教授 山本 奨

人間関係づくりの「練習の場」としての学校

- * 子どもは、はじめから上手な「人間関係づくり」ができるわけではない。
- * 年齢や発達段階に応じた「人間関係づくり」の方法と態度を獲得する必要がある。

早期発見の要点

- * アンケートはコミュニケーションツールだと考える。
- * 肯定的な内容の質問は答えやすい。
- * 肯定的なことが書けなくなったときは注意する。

対応の要点

- ①被害者…主観的な辛さを支持（サポート）し、具体的に有効な対処行動を練習させる。
- ②加害者…いじめの基準を提示し、対処行動の失敗を検討して、社会的に認められる方法にさせる。
- ③周囲の子ども…止めること、訴えることを躊躇したことを支持し、客観的な事実を情報提供してもらう。
- ④学校…教員は、役割分担をし取組を具体化する。いじめの基準を蓄積し、共通理解を図る。失敗を教訓に、未然防止の指導を行う。

コンプライアンス情報②

今回は、「飲酒運転の影響」に焦点をあて、管内の学校で実際に研修資料として活用されたものを提供いたします。1つ目は「処分内容と生活への影響」についてです。飲酒運転によりどのような処分が科せられるか、それにより本人や家族の生活にどのような影響を与えるか、あらためて確認することができます。

2つ目は、「お酒が人体に与える影響」についてです。なぜ飲酒運転が危険なのか、人体に与える影響から正しく認識することができます。

なお、資料は、『日本損害保険協会HP』『アルコール健康医学協会HP』からダウンロードして活用しています。他の資料も多数掲載されているようですので、一度閲覧してみることをお勧めします。